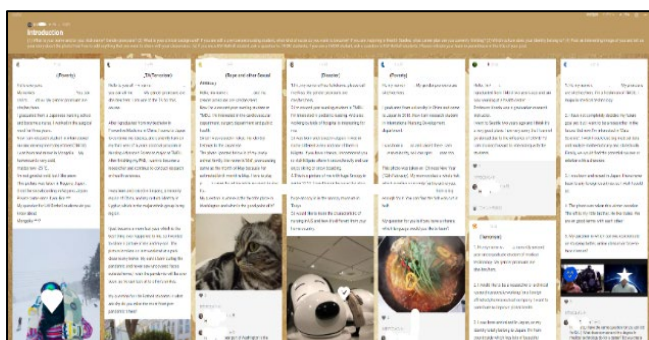


米国ワシントン大学との遠隔国際交流プログラム Collaborative Online International Learning (COIL)が開催しました

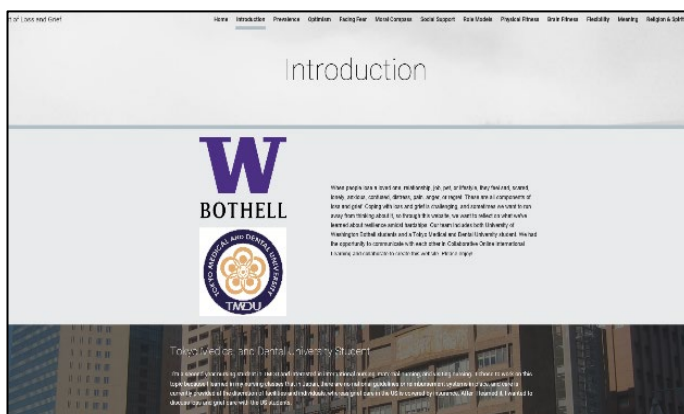
2002年から長期に亘り交流のある米国シアトルにあるワシントン大学 (UW) と、今回コロナ禍という事で、遠隔国際交流プログラム：Collaborative Online International Learning (COIL) が全8回で行われました。



Padletでのプロジェクト

参加した留学生4名を含む9名のTMDU学生と28名のUW学生達は、言葉と時差の壁を乗り越え、Loss and Grief (喪失と悲嘆)、Disaster (災害)、Rape and other Sexual Assault (レイプとその他の性的暴行)、Terrorism (テロリズム)、Poverty (貧困)、Mental Illness (精神疾患) という難しいテーマに取り組みました。両校の先生のアドバイスを得ながらトピックに関する調査をし、異文化のバックグラウンドを持つ同年代の学生と意見交換し、互いに刺激を受け、まとめるという大きな共同プロジェクトを成し遂げたことは今後の大きな自信となっていくと思われます。

今回のプログラムは、同期型の Zoom による講義と Discussion と非同期型の Padlet への書き込みで学生同士のやり取りを毎週交互に行い、グループ毎に日米共同プロジェクトのホームページの作成とプレゼンを行うという今までにはなかった同期/非同期を組み合わせたハイブリッドの COIL プログラムでした。



Loss and Grief チーム作成ホームページ画面



Zoomでの様子

新型コロナウイルスにより実際の海外派遣が出来なくなり、その為にできた新しい形の国際交流プログラムでしたが、これによりコミュニケーション方法の多様化と重要性を改めて実感できた2カ月間となりました。